

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	地理・歴史	科目	日本史A	単位数	2	学年	2	類型	ビジネスコース
教科書	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来			副教材	なし				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点		
				①	②	③	④			
1 学期	4	巻頭特集	コラム 近現代学習のはじめに		◎	○		学習のねらい 年間を通して、19世紀の世界の動向の中で開国し、近代社会を成立させ、それを発展させていった日本の動きを学習します。 一学期は国際環境の変化の中で生じた明治維新についてまなびます。 二学期は日本における近代国家の成立と国際関係の推移についてまなびます。 三学期は第二次世界大戦後の日本と世界の動きについて学習します。		
					○	○	◎			
					◎		○			
					◎		○			
	5	第1章 近代国家の形成と国際関係の	第1節 近代への胎動	1 せまってくる外国船 2 ちからを蓄える庶民 3 近代思想の息吹 4 揺らく幕藩体制	○	○	○		◎	
				第2節 開国と幕末の動乱	1 黒船がやってきた 2 志士たちの時代				○	◎
					3 手を結ぶ薩長 4 近代との出会い 5 江戸幕府が終わり新政府へ	◎				○
6	第3節 近代国家の形成	1 江戸が東京になった 2 天皇の軍隊がつくられた 3 スローガンは「富国強兵」		◎	○					
		4 欧米文化がはいつてきた 5 日本の国境が定まった 6 爆発する農民や土族の不満	○		◎					
7	第4節 国際関係の推移と近代産業の	7 国会開設が決まった 8 地主制が進行した 9 立憲政治がはじまった 10 国会がはじめて開かれた	◎			○				
		1 欧米と肩を並べる国をめざして 2 清国との対立が深まった 3 藩閥と政党が接近した 4 ロシアとの戦争がおこった	○		◎					
2 学期	8	第2章 兩大戦をめぐる国際情勢	第1節 第一次世界大戦と日本	1 民衆が政治を動かすはじまった 2 最初の世界大戦に日本も参戦した		◎		○	学習の目標 近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して、現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるということ、歴史を学ぶ意義に気付く。 近現代の日本の歴史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する。	
				3 成金の時代がやってきた 4 朝鮮・中国の民衆が立ち上がった	◎		○			
				5 日本は欧米に歩調をあわせた	◎		○			
				6 「平民宰相」が登場した 7 抑圧からの解放をもとめて			○	◎		
	9	第2節 第二次世界大戦と日本	8 新しい文化とモダンな都市が生まれた	中間考査	○	○	○	◎		
			9 学問と芸術に新風が吹く		○		◎			
			1 恐慌の嵐が吹きあれる 2 日本の外交が行きづまる							
	10	第3節 現代の日本と世界	第1節 日本の再出発	3 軍部の暴走がはじまった	○			◎		評価の観点 ① 関心・意欲・態度 近現代の歴史的事象と現在との結びつきを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意義に気付く、関心を持って学習に取り組んでいるか。
				4 中国との長い戦いがはじまった	○		◎			
				5 戦争の影が文化におよぶ		◎		○		
6 すべてが戦争に協力させられた						◎	○			
11	第2節 独立後の政治と経済の発展	第2節 独立後の政治と経済の発展	7 復興への転機到来 8 複雑な環境のなかでの独立	◎			○			
			1 平和への願いが叫ばれた 2 保守と革新の正面衝突 3 奇跡の経済成長がはじまった	◎			○			
			4 奇跡の経済成長の影 5 あらたな戦争にまきこまれた 6 豊かさの中流意識			○	◎			
12	第3節 現代の日本と世界	第3節 現代の日本と世界	7 アメリカとの戦争がはじまった 8 戦争が拡大する			○	◎	② 思考・判断・表現 現代の日本の歴史の展開から課題を見だし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。		
			9 アジア・太平洋の諸民族にかかわった 10 生活も戦争に染まった			○	◎			
			11 戦争が終わった	◎	○					
3 学期	1	第3章 現代の日本と世界	第1節 日本の再出発	7 復興への転機到来 8 複雑な環境のなかでの独立		◎		○	③ 資料活用の技能 現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。	
				1 占領軍がやってきた 2 日本が生まれかわる 3 新しい国のしくみ		○		◎		
	2	第2節 独立後の政治と経済の発展	第2節 独立後の政治と経済の発展	4 飢えとのたたかい 5 飢えのなかでも開放感があった 6 民主化から経済復興へ	○			◎		
				7 復興への転機到来 8 複雑な環境のなかでの独立		◎		○		
				1 平和への願いが叫ばれた 2 保守と革新の正面衝突 3 奇跡の経済成長がはじまった	◎			○		
3	第3節 現代の日本と世界	第3節 現代の日本と世界	4 豊かさの中流意識			○	◎	④ 知識・理解 近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。		
			1 2つのショック 2 経済大国が誕生した 3 消費はファッションになった	○	◎					
3	第3節 現代の日本と世界	第3節 現代の日本と世界	4 バブルはこうしてふくらんだ	学年末考査	○	○	○	◎	備考	
			5 大きな歴史の転換をむかえた 6 政局と経済が混迷する				◎	○		
				7 これからの日本について考えよう 8 時代の転換点について	◎	○				

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：思考・判断・表現 ③：資料活用の技能 ④：知識・理解

◆学習方法のポイント

【日本史Aの勉強方法の特色】

C 地理歴史

- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。
- 日本の文化や社会の発展に興味を持ち、理解するように努力しましょう。

【授業】

- 授業では以下のことに注意をしてください。
 - 1 教科書を何度も読み、興味や疑問を持ちましょう。
 - 2 基本的用語については、調べて、その意味を確認しましょう。
 - 3 ノートをきれいに整理し、理解しやすいように努力しましょう。

【家庭学習】

- 教科書を繰り返し読みましょう。
- 理解できない用語は、辞書等で調べてみましょう。
- ノートは自分で工夫して、理解しやすいように工夫しましょう。
- 授業等で感じた疑問は、必ず調べたり、質問して理解するようにしましょう。

【定期考査】

- 教科書・ノートを繰り返し読みましょう。
- 重要な語句は、覚えるように努力しましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用の技能・表現 ④知識・理解の四つの 観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1 学期	単元テスト、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均